



1177
4

花洛羽澤根卷四目錄

愛宕郡

五十八ヶ村

中郷の惣社を以て
社と始りし事山を
依りて石田中社共
洛如水宮社早寺洛中
惣社と云ふなり

紀伊郡

二十三ヶ村

同編社共三丁
中丁九四丁
依りて早寺共六丁
後宮社共五丁

宇治郡

卅七ヶ村

山科を以て早寺
柳の御所早宮共八丁
野の社共九丁

久世郡

廿二ヶ村

巨指社共三丁
早宮共
柳の御所共三丁



綴法形 了律社又光七丁 了武社并丁 四十五ヶ村

相樂形 七十七ヶ村 梶原又光七丁 了田が倉社

乙訓形 四十五ヶ村 関戸の律社并丁 了倉社 了倉社并丁 了倉社并丁

葛城形 六十八ヶ村 西度ま音社并丁 了倉社 了倉社并丁 了倉社并丁

八郡合 三百五十八ヶ村

神社之部

○上加倉社 地宮形 山本林 社并三子七重倉

本社別雷皇太神官ふして

王城の陸守より山城の玉才一

の宮と稱して平安城遷移の

に本法座あり

末社數十座あり奉幣あり六

略之毎年四月中の酉の日

葵祭として勅役ありを新庄

歳重負大懸をりこととて

。五月の日懸あり社人神

ありて後負を分つる物つき

後山をり又毎子六月晦日

水世月の社とて儀あり又皇
御もみ高皇本橋本の社とて高皇
業年山方方の社とて皇御

○流本社 上か養葉の方七下あり

流本の社とてありか高皇本屬

志名 鞍馬山の社西より

○貴布祢社 社北極二石

ある社の社二座一高麗社

や二別雷の社あり性昔

いざらだの命十極の宮

打違突を水て三股と云ふ

一は高麗と云ふなり是社

き船四社あり雨をこひ又

雨をこひしりあり此社を祈る

小社あり又まぬいりせの社と

守護しりあり小社あり

の社ともいふ又形中ふ人信

て除穢といのふ末社敷あり

奥の社とて八丁入り入とむ

ふありある社の社あり

まの船の西中下

○午頭天王社 正田村あり

○鞆社 鞍馬山樓門中あり

ある大己貴命 朱雀院乃

山とて天慶年中の勅詔あり

社位正一位大己貴命 世

發劬はつごのよにハ靴あきをこの社つに
かゝる故ふ社号とるなり例案
九月九日あり

○細川社 右日下傳ひがふ谷やあり

信のくり此社祭神ハ細川政元
外法を修し魔法と得たる加
ふくふくあり

○石上社 右日下あり

○梶取社 二の瀬村のやあり
祭りあり口談神祕しんなりまま社の
社つ屬ぞくと

○山の神 二の瀬村あり

おのくり山の神と稱なるなり
ありありありありハ大山祇神と
なるなり例案三月あり

○粟穂辨才天 昔中村あり

天女の像ハ弘法大師の化まりて
永享二年九月九日辰村中の
民人靈たまと感かんることありて
のら社つとありその社つ後
無なりハあり

○神明社 右日下

○立田社 右日下

○靜原社 勢多東南あり
上加谷の末社あり毎年

正月中の間の日暮を祭ふ用ひ
此の墓ハ此より採りて

井田村あり

○江文太四神

倉稻魂命と多るいざらまの
子の清子あり例祭三月三日
神楽二基あり大原御中
の民人の老翁神あり

右日村後山あり

○火壺雨壺風壺

上古より此号あり山乃自然
の三窟ありて石の墓ありて人

雨乞江祈^{きん}新^んとくふ威^い意^いら
おろし此地魔^ま雨^{あめ}りてて人
怖^{おそ}れをもち

岩倉西の山あり

○石座明神社

石^い座^ざをりて法^いを^はと
そとて是天神の祀りたり
下の窟ありてと云傳^{つた}へ
洋^{やう}あり

○一言主の社

東福門院の皇女女三の宮の
許^{もと}ありて雲^{くも}を^をて人^{ひと}口
ふあり

○八幡宮 七名ありあり
此の寺の大神ありて惟喬親王
の幼侍ありおまれ例年八月
十日一二のち居のあつては
穀多をまると

○陰山社 日ありあり

社記未考 毎祭九月九日

○午王社 日ありあり

○弁才天社 花園村あり

例年九月九日おまれ

猪林後村往還の西の宮あり

○姫宮

おまれの西の宮あり

○例祭三月三日

猪林院の西の方山の社あり

○膳子社

和分若菜の膳子神社の同社

膳林院ハ古く唱名お膳

世小大系偏といふ昔良忍文

寺ありお膳なる母膳子神社の

おまれをみる此時の社一人の

寺子お膳て社宮ありてそ

大系山ありて良忍の社法

を中後とてしと故お膳文

の社法なるあり

○今官

上野村あり

傍ふ松の古木あり 是別
惟喬親王をまつところあり
。因ふ南の方田地の字ふ沙面
内とつふあり 是親王の用居
の旧地ありと云傳ふ

○天神宮 矢野東山の下あり

菅公の沙美法師坊の円形
乃室ふ入々せられそそ急の言
沙美ふ叶ふとそ 柘榴を採
て妻ふ投有わつふ粒火と成
く燃しとそ世人の云ふあり
そ後沙美を結く天満天神
の号を結たりと傳ふ

そそ急の初傳ふあり例系
四月二日神樂二基あり一基ハ
八王子の神樂あり。そそ急の類
天満宮の文字ハ竹内沙美乃
筆あり

右有雨天満宮の巽の方
○八王子社 二河斗山後あり

おあり如日吉社の八王子の神
日吉のお少礼ふ此里の七氏八王子
の神樂を昇こし故ありとあり

○日吉社 右月ありあり

毎年四月中の申の日日吉祭
の日ハ御村の七人天神の社ふ

集り尚社に詣りて夫より山
を越て左坂本行の之の津原の
津妻を昇ると古例も也

○^{神名}聖の津原 右日ありあり

日吉の聖眞子ありて正哉
五勝の尊あり

○源々夫宮 右日ありあり

宮簀姫の父尾張の連行基と
祭るところあり伊田の社乃
末社ありゆのゆあり勧誘せ
しとやと初拝あり

○辨才天社 比叡山を勧誘寺各
あり

ありあり竹生徳の辨才あり

○^{たらの}高野社 ^{たたら村東の山あり}

早良親王とあり例祭三月廿
材中古老のその鳥帽子あつかいと多絶
あり社妻を昇るとあつかい社妻の
ありて田知登川寺小宮あり
ありて社をふすやせりてと
あり社をふすやせりてと
ありて社妻をあつかいして安行
ありとありて宮女靈應希代
の例ありあり

京社津指巻四

○金山社 古石あり
楡^{いざなり}の社ありて、
内裏ありしを享保五年中
此地に移さるるなり

○津彦社

下加谷の社始、素戔の地として
上加谷の社の生ずる毎歲
に月中の午の日内裏より
恒例祭あり式嚴重ありて
下加谷より社務神官亦
兼候し古來より下加谷
乃神降幸あり

○赤山明神 修善寺境内の山

天台宗の護法神ありて、
大師入唐の初は赤山にて神
形を親し護法のこと誓約
ありて後由緒の附たり是れ
巧し神は大師の遺徳にて
其後身此社を勧請せり
赤山と云ふ震旦の山の名あり

○八大天王社 一云寺村あり

此所の社祇壇三空の中八王
子あり例祭あり

○天王社 新井村あり

一、多々村八方とて、同日神也

○天神宮

白川村南山より

此所の天神宮、天神宮の額、思ふに、尾道と先、歌王の、此所、撰社也之

○十福作社

此所、水浪岡の、前より

瓊々杵の、名く、曰ふ、ふ、此所の社あり、神号、詳す、こと

○大豊大田社

藤う谷

此所の、此所、天王、人、例、案、九月、九日

此所、水

○下賀茂社

此所の、神領、六百、石、石、余

此所の、社、神、殿、西、二、殿、あり、此所の

此所の、東、大、己、貴、命、西、玉、依、姫、之、法、聖、の、法、神、秘、を、此、所、に、と、り

此所の、社、式、ハ、小、社、宅、の、社、と、稱、を、上、加、茂、の、社、目、下、加、茂、社、と、稱、を、附、

必、先、此、社、と、稱、し、て、本、社、と、稱、す、こと、恒、例、と、す。此、所、本、社、と、稱、す、

橋、門、の、中、に、あり、此、社、の、法、の、本、を、ま、結、し、て、裁、を、ま、結、し、て、

此、所、の、法、人、の、名、を、此、所、に、

此、所、の、社、式、ハ、此、所、の、社、式、と、稱、す、

此、所、の、社、式、ハ、此、所、の、社、式、と、稱、す、

を介振社事社敷ありこれハ
略之。例年六月頃の雨を以て
夏後の神々の歳をまかり。

古月あるを以て今或は標
し神を以て此の宮神を
紀の細路とて林間小床を設け
雨の後の井も清く清泉を向ひ
終り部多と。四月は葉木の或
よの宮を同じ初 初夜当社
を奉りて次よの夜へま向て
まして下かをを首とまかり
か下上の社とまらぶ云

○熊野権現 此より後後村にあり

後白河法皇紀前熊野よりま
まよふまよふをてまをま
此宮初夜ありて大社あり
者仁のま紀ふ減亡しを
今の社建つ社後内を
し樹木無くて空の
細路よの宮ま在地あり
四月のありては社の細路
とまわ月のは清の社ま
まをま

○吉田宮齋場所 社名の首の者

後和天皇の御宇貞觀二年
中細山麓の勸修寺と

又ハト部多延の造字もこの
本版ハ八角ありて草書に
類字 日本最上日高日宮と
ありハ 倭海帝の清名を
そり額板くつりの神版と
本版の造あり額元本ハ
神版の字ハ 倭門尾の造
筆ありあるむし神祇有ふ
つりしを神版ふつり 本
版も本版の支根日本國中
惣括社神の造あり対馬國
つり國名社版を造りたる
す造りたる社地版を造り
つり神版他たたらし

旧宮外宮ハ八神版の造あり
あり 吉田版ハ本社の造あり
本社の版ハ日宮の造あり 九
日本山中社日宮位の事ハ
吉田版 神版の造あり。
宗原版 吉田版の造あり神
版の造あり 日宮ハ吉田版の
社日版の造あり

右日あわの方あり

○春日社 社版十二石
本社の造あり社日神の造
あり 社版ハ中山の造あり

大日本製書社
社版

○西天王社

古社ハノシクハ重信屋の社の
傍ふりしを毎年二月廿日
當如ふ分梅の力ハノシク
古夫多あり 例年古夫多
神樂一基舞の深感神は也
あり

西天王の古夫多

○ 木風社

祇園年改て玉姫の本風山
現したるハ此地本風山
をこの本風の名なれども
此神ハ祇園社中の一神と
して例年ハノシク

○ 東天王社 中島寺村

此寺ハ年改て天王例ハ九月
十七日あり 許七ヶ村 神樂
ハ各々げけり月一本洞潭の
不泥塑の大尊 粉色ハ
意定これヲ古夫多のほ
村人崇め之 元是感神儀
神楽のよし

○ 文子天神

中河門は河新敷ありて河
邊古之初ハ此寺ありしハ

○ 松野権現

古夫多

みまはるる神託よりて再
真と一説ふる長の社とて

○ 諸羽の社 日の高のまゆあり

あまの天兒を根命 天を玉
命の二重を信するなり此
社より東を四の宮河を
つらり例おのれなり

○ 天王社 信のまゆあり

感神院の神は王子をおのり
例歳九月よりおれ許板
十和りり雲田宮河分中
のあれより此をこの中ふ

阿古志牙 コダボコ とのありそを
神宮 シヤ 守 旗は感神院の
の字あり

○ 梅宮 古のちる猪院中
あり

まゆまゆとて始る川河の
ありしは神あり梅と。此社
内小田宮まゆ音梅とて
少初あり首とてあま
神をともふとてあり
り

○ 梅子社 古のち

信の神の能うて三を

人家の傍にありてを存せしむ
うほと

江戸にありて通の末の事

○祇園社 社在百鬼夜行の末

お少の如く云ふ事ありて中央の事
天皇とありて八王子西の同橋
御所ありて聖武天皇の御所
吉備の古入道ありて帰朝の御
播磨の國彦峰ふ雲記あり
その後事ありて守後ありて
その中今地ふけ事ありその地
世に夜行の事ありて夜行
ありて事ありて日良
唐法中の男女を御せしむ

て六月をとりて夜行をせしむ

よりこれと年との祇園社あり

の事と始りて神樂の事あり

八坂の神樂ありて又寺の事あり

神樂の事ありてこれよりありて

照宣云神樂を事ありてこれ

神樂の事ありてこれよりありて

道ありてこれよりありて

龍宮ありて昔延名の神樂あり

本の事ありてこれよりありて

らありてこれよりありて

もありてこれよりありて

もありてこれよりありて

感神恩をあり思ふは是れ
は親王の御事と報應多し
いふに本殿の御事御事
陽成天皇御事とありて
用巻。蘇民將來の社ハ
中一の社社なり 作
の阿人と茅の社とありて
蘇民の裔ありて蘇民
オホム人ト守トシて
先々ト云ふ社ハ
教多うれハ
祇園寺ハ
儀式嚴重なる事
たり

漸興盛にして
百人風俗の
社ハ
の社
天下安んず
用巻の
御事
多し
格の

東洋通志 卷之五

○ 渡伏社 祇園西門外少室山

お多々お渡神ありと又浮乳
をふとあつともいふ詳あは
昔此処あて文足上人の齋
して平家と呪咄せし地
ありといふ

○ 山王社 口南少室山の西

つしつく處山の麓徒林表
強解せし時ハ必山王の神輿
を掘入りしと云ふ事あり
されバ神輿を掘入りし事
保延のはたのころ掘入り
しふ事ありと云ふ事あり

せしと云ふ事ありと云ふ事あり
ふ命をて此社入りしと云

○ 午王地社 口南や川原

祇園の神始降降の地されハ
此社を建凡祇園と云ふ事あり
て多事ありと云ふ事あり

安井銀橋寺中より

○ 金比羅天後現

あゆ殿ハ 崇徳天皇 今皇比羅
神況 源三位親政を勧修寺
崇徳天皇 今皇比羅 同く神
して和光の慶を同くして
権懐の事ありと云ふ事あり

村生りらぶるしとこれハ修験
の誕生日夜不安を言ひて
俗人の能なる事

源三位の事言後ありと云ふ事
詳しし頃あり考

巴を繩子の角

○ 太神宮

修管内印の淨律を勧誘し
より知らり澄揚強くあれと
言傳りし事

建仁寺門ありあり

○ 権子社

おありぬ権子命おんこのこと後唐刺史あし
貞政の化あり建仁寺同山

はる物修験入るしと御願の
せの難風よあひとまじし一何
此像をいりて老翁きやうんをのぞれ
たすし一建仁寺遠近のとき
社を寺内こそせられしこと
きりたる後門あり福をり
高は原ハ福の神ありとて
農工高きもふそめて俗人
多しおあり九月十日又四月廿
十月廿日多福人山のごとし

建仁寺中修験菴

○ 摩利支天

嘉慶二年修験和る高き
勢けいそく山の高きりて遠りこれと

あつたなり信新いのちかなるその後

後志郡通官門町

○十程師社 古側人家の邊あり

車止の社とも武蔵坊弁慶
乃中なかつなるともやわの社也
廣天くわてんののりくくハ少初すくなり
多由たゆ祥しやうなりなりむむ程しやう考

○晴明社 古側人家

昔舟ふね道みち明あきらの極きよくありし
町家の地面まちやのぢめんととをを極きよくを
中なかつ一いつ平へい地ちととなりなり好この寺てら快
おおくくありありててるる社しゃをを建た

幼信わかぢんととぞ

松島國書井屋の跡

○業平社 古側人家の裏

ととなる業なり平へい社しゃとと幼わか信ぢんは
信しんととなりなりくく此こゝ代しろ何なに業なり言ことのの此こゝ別わか業なり
そそりりししののつつららりり留とど地ちととなりなり
又また代しろのの此こゝととハハ大おほききららるる古ふる樹じゆの
極きよくありありししややももおおよよいい寺てら石いし未まだ
埋うめめららるるとと極きよくななりりととそそののつつ
此こゝ社しゃのの多た好この人ひと可か考こう

後志郡水寺の西

○地蔵権現社

おおああららぬぬ大おほ己おの命のみことととももなりなり
表おもてにに田い村むら將まさららるる表おもてにに文ふみ殊ぢゆ大おほ王おう

の像を安しきりともり
弘仁三年己月延法河門の幼
諸より例案也月九日神樂
を經書堂の前ふりて
是龍王をまつるをり
尚社のほりて極多し
の比社の社宮をまつるごとく
延法河門の河海をまつる
ことあり

七日寺多相傳の上

○龍神社

弘仁元年以門延法河門の幼
ありて龍の宮と号し古河集
の河とて河川の河海をまつる

よあひし河川の河海をまつる
初念しきりて河海をまつる
しを延法河門の河海をまつる
を延法河門の河海をまつる
せしきり

多相傳多あり

○若宮八幡宮 社伝の千石

古法延法河門の河海をまつる
石屋木の橋をまつる天喜元年
佐自手通堀河ふりて
のふりて後をりて地を橋し
まいて佐女舟の八幡をまつる
例の八月の祭をまつる

○三崎の神 古伝の小杉谷
あり 衆多の神を國三崎の神乃
日神あり又る神は福島の
神を合致し初後と成神
なり寸 多神の氏子體を
持ありとす

修ふ大杉谷の伝

○新日吉社 竹とたう草草林

永曆の中 慈師の日吉と極
にありり 應保二年に日吉
くしりて新日吉を成りし
より日吉傳はりしが 寛仁の元
小破壞してそとをりてに成
る後 妙法は法書成致五二五

志のいしりり 今例年二月
十日をなれあり 今日大杉谷
河堤自ら水の結あり

古伝南条新日吉神村あり

○新日吉社

堀込中 後白河法皇紀 皇孫
権徳頼朝を致し 守りて結地
浄華寺なり 今後新日吉の
寺を祀るとせむいしりり 弘
長元年 小杉谷にありんことと
新日吉のふたね神初ありりて
此地に神なりし 紀前山山の
寺を祀るとせむて地を築
宮殿同前 今大杉谷神

りくむらち法政殿^{まじりし}の
高仁の紙ふき^{すく}のちふ同海
を^し海平^くく^て重信尾の院
家^か信^の尾^は母^はあり代^はと
せり

○ 汲宮

新^{しん}足^そ野^のの^まあり

向山^{むかやま}神^{かみ}祖^その^まの^まの^まの^ま
又^{また}天^{あま}の^{あま}善^{ぜん}雲^{ぐも}の^あ汲^ひを^あ
と^とり^り山^{やま}の^の平^{ひら}地^ちあり
神^{かみ}と^とび^びく^くる^る給^{たま}り^り社^{やしろ}あり
古^{ふる}石^{いし}あり^りし^し神^{かみ}真^まの^ま善^{ぜん}
う^うり^りを^を切^きり^りと^とり^りを^を使^{つか}ひ^ひ
あ^あり^りて^て室^{むろ}を^を作^{つく}ら^らず

○ 滝上辨然天

汲宮^{ひきのみや}あり

川の^かは^はり^り切^きり^りや^や善^{ぜん}を
ら^らば^ばを^を信^{しん}作^{さく}の^のの^のり^りて^て山^{やま}を
切^きり^りて^て建^たつ^つ又^{また}社^{やしろ}あり
神^{かみ}あり^りて^て山^{やま}の^の部^ぶあり^り
り^りあり^り

○ 滝尾社

依^よ名^なあり^りの^の社^{やしろ}

山^{やま}の^の後^ごを^を乃^の社^{やしろ}あり^りを^を以^も
切^きり^りを^を

○ 堀本社

上^{かみ}堀^{ほり}寺^{てら}の^の門^{かど}あり

人^{ひと}皇^{みかど}字^な字^な七^{しち}代^{だい}の^の帝^{みかど}齋^{いひ}斎^{いひ}の^の靈^{たま}

神をあらたけりて人々のしる
ふ陵の神あり

三の所のまじり

○田中社 海々の西より

おろし稲荷の社のまじり

俗に稲荷の社の敷地をまじり

よ古くはけ遠一田の田中

を中ふ社のまじり田中の

社よ又宮人社又古殿社

よよまじり稲荷日よ

神也又目

紀伊郡田中宮よりあり

○稲荷古の神 社領古名

えん天皇の和州四年よりあり

此山降臨しりよ弘法を伴ふ寺

の門ちよて稲荷を存いし元祿

のいりよふを宮殿の九

さうはあつらひてつくは

りりりの神の祀をるおろし

始これよまじりありを曰く

らの神あつり稲荷の四社

号又一法ふ弘仁十四年とい

又この社のたを長所寺の修造

ともり。まじり社敷あり

四巻之。二月初年の日法人部

びりハ神移の敷をまじりあり

改まじりしてありとを古

よもまじりありまじり

例年八月五日卯の日神楽
を其方りて九条の河橋より
出たすいしき等も大門を身入
合堂のまへに神楽をよむを
ツブコ 神供をひよ載て^{のせ}まじ
信供をよむに信をれを信を
一山の居位をよめ少烈一^{ツルネツ}
とよし^{せい}祭にを儀式長教を
尚承と申中祭式再行り
てよく小増長一工神樂の儀
の更祭をよ神馬のりりよ
是にて^り信供は陽祭の儀
より

○七面山神社 信所の由
おありぬ一宗古後の神ありて
古日蓮上人身延山開拓の時
示現して永く宗名を信所と
すしよの祭儀ありしを例
祭九月十九日ありて一山祭と
す

信所の由は美の里より

○藤社社 社飲 或可也
おありぬに座ありて舍人親重
お良親重伊豫親重より
舍人親重八天武天皇の御子と
天平寛字三年六月出立りて
崇道^{しんどう}直教^{ちかう}皇帝と好む。例祭
及びり信人及び子者甲申

弓^{イサ}箭^ヤを^サ射^ルる^ハ昔^アある^日款^をと
蒙古^{マウコウ}の^軍械^をを^誅し^て取^りて
と^まの^今風^をて^滅す^天下^を平^すの
後^{あり}。と^まの^日子^昔古^塚
と^りあり^神時^昔古^の古^持の
首^若を^忌を^持て^一堀^くと^も

○山形神社
山形山科大宅村

社記詳す^一に^倫系^九月^九日
神^皇之^基あり

○雨社
七日 劫後三月の節
從遷の少あり

と^りと^劫後^寺家^祖神^{あり}と^り

○種子八幡宮
雨社あり

高^社を^種子^ハ幡^宮と^りて^ハ
つ^しく^ハ後^因杉^の古^{あり}り
古^風俗^をを^移す^移す^後
板^の面^下河^後伝^伝の^種子^ユ
と^りて^ハ今^の宮^をも^種字^の
杉^とあり

○長尾天神宮
下碓礪も尾村あり

多^少の^天神^{あり}り^碓礪^る
ハ^延喜^市の^河を^りて^ハ五^由
宮^の河^をを^りて^ハ五^由

けいれい子幼徳有りしとあり例
祭九月九日

下野郡上野郡子

○ 清滝社 ありあり

あはれも清滝社現し例系

九月九日あり

石田村あり

○ 石田社 石田村あり

天思古神 日吉山王のあはれ

あはれ有りしとあり天武帝の代

あはれ下代しとあり神を祀

あはれあり永くあはれのあり

あはれ復たありんとあり終て云

あはれ幼徳ありしとあり例系

九月九日

紀伊郡御水山の神

○ 御香宮 社殿三百名

あはれ神功后皇より 法を祀

あはれしと古皇を園地山の城

あはれしと海城地の神あり

あはれしとあはれ谷のあはれ

あはれしとあはれ谷のあはれ

あはれしとあはれ谷のあはれ

あはれしとあはれ谷のあはれ

あはれしとあはれ谷のあはれ

あはれしとあはれ谷のあはれ

あはれしとあはれ谷のあはれ

多らふ事會中しるらんゆふ
伊香のまると号くこと

伊見唐師何とらり

○金れ宮

あまのふりまのここと
あまのふりまのここと
の記詳あり

同まきし坤八廿二

○天王社

天武天皇の御_まををを
社記考 伊香九月十日

久世部小念あり

○巨椋社

春日大宮よりり社記詳あり
伊香九月十日

あてり

久世部佐山村あり

○榎本八幡宮

石清水の八幡宮をて法元年二月
高村の橋氏の申す_ま告の申す
しふらて 朝妻をへてけ

初信_ん又_ま保_ひ中_{ちゆう}初_{はつ}を
榎本一_いの宮と_また_た入_い橋
氏とりつて_ま目_めと_まあり
例_{れい}九月_{くわ}の_ひ。或_{ある}社_{しゃ}は_はの
乾_{かん}あり

久世部久世部あり

○久世神社

久世神社名姓_{なせい}を_まの_の久_く世_{せい}
の社_{しゃ}を_まの_の久_く世_{せい}

下考

○言念宮靈社 日向水の宮七丁を以て あり

此の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり

○柳大明神 日向の宮の末社 あり

此の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり

○浮舟宮 日向の宮の末社 あり

此の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり

○離宮八幡 日向の宮の末社 あり

此の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり
日向の宮は日向の宮の末社なり

りんたろう

○ 柳の社 雑司のまじりの
一丁半あり

この社を古来の石文のまじり
と云ふに後にも傳子後の志
古柳あり

○ 柳井の社 名世のまじりの

おふら柳井とらう一説にひら
姫姫とら女なりま市村の社
禊で生るまじり悪鬼とらう人を
恨まがわふ柳井とらありとく
まを法りてててそまじり
まぬくありとて悪く

これと柳井とら柳井のまじりに

○ 縣の社 名世のまじりの
後門あり

おふら柳井とら柳井のまじりに
とらひ又子柳井のまじり
り例ある月ある日あり
神楽一暮りありりり世夜半
の供子とてまじりし柳井
りり柳井とらとて柳のまじり

○ 神明社 名世のまじりの
久里古あり

迎を此年伊賀刺史社式
社殿修築とてまじりし

何人にて其言ありしや
よつて奏せしむる勅使也
と云

綴在勅字信田系の里

○大宮

新宮の勅使の記詳あり
又品信
よふ中地ハ注危
其の記多し
のそ記して神号詳ふ
其例
其九月九日

○八幡宮

右白新

郷中の一の宮と称して
其郷人の氏神なり
例其九月廿五日

○天武天皇社

口八幡宮の所

又一説あり

田 其を白宮と

其を白宮と云ふ
其を白宮と云ふ

紀伊郡淀中福宮町の方

○伊勢向社

海をふあり

其より天逆向津姫の命とて
宮らハ天照皇を神宮なり又

石居の神日の記よりハ八幡宮

造章の記ありて伊勢向と

号しと云ふ此を代淀中福宮なり

依しと云ふ此を清水の寺なり

小橋の上より水浸るなり社地ハ

水より浮て浸るなり其を
古人云伊人

之世新定小く一幹五

○定姫社

ある所三聖中央定姫社
子親内供西天神也
千親住所の初後所て此所
佐賀郡川上止安社を稱し
ありてを例祭九月廿五日

綴表新八幡山一の巻居の内より

○八幡文所藤所

貞観三子初る道管より毎年
放生今亦社與河邊幸す
すは初又毎子四月十九日
あて夜神と祭ありては方
より男女を祈すありては

まて新定と世よ夜神の社
いふ北より

○神殿

八幡山よりあり雄佳山又
ありては三聖神殿之間ありて
中間譽田天皇 胎中天皇
人皇十代仲哀天皇より曰の

皇子ありてあり玉依姫はれ
神武天皇の御母あり西の
神功皇后ありて是神を皇乃
西母あり。八幡の神は古所集
ありては八幡文和年法皇と神紀
ありてはありてありて。尚山
少治天皇の事ありては

ナリ和州大坂の傳新教習
の道管なり和州の管は東の宇
佐八幡宮ニあり日奈の能く大
般若及び大菩薩を禮備し
言の法住とす納りりるふ神
を法住とすいかりて和州ふ
神化ありて皇城の南界山に宗
たぐいと教たまひ新教の衣
ふにそのの法住現るなり和州
鎮をたふありと伝へて和州と
峯のやうなる六辛御感得かす
遊ふあ中山ふ河邊管なり
と傳ふる今神教の所祭壇代
座たふありて地またらふをし

神教の事合の榎をわけらる世
人好くそありぬなり例年八月
十日勅使を拜す外云くまがら
とありてそあり又
高山の禰系代に伝ふる

○ かきのやうら 神教のめあり
かきのやうら 神教のめあり

○ あきのやうら 神教のめあり
あきのやうら 神教のめあり

○ 神庫 本殿のまあり
神教のめあり

とありて中山月按社末社教多
ありともあり

男山のふみ

○天神宮 川口村あり

おろそか天満宮と神之本博の中
奇蹟の事ありて此の御勧修
をとりて例祭九月五日

乙訓郡山崎の高岡にあり

○開戸の神

おろそか御尊國大宮古き神
ありてさしへ山城と御付の由境
不明り所甚く難なるをとり
此の神ありはと別地名をとりて
開戸の神とて

日山崎あり

○難宮の情宮 社名七百石余

あまの難宮の号ハ八情宮勧修
より之のいひに御勧修とて此所
不難宮を建たれて夜御はし
りや一四地ありこれを山崎の
難宮とて一勧修のことハ勧修
和名ウ佐八情の神をうけ
上流の所は御海にあり小老翁
とて和名を討ち南山は神宮
たすむと御川の此方と御
より神宮造言ありしとて
よみて神宮のうしろの山の名を
神保山とて又神宮下小御
泉涌りこれを石屋とて

○八王子社 山崎山の山王社
 祭りの素盛盛置る等の事ハ至
 りるなり 幼儀の紀未考 神祭の
 祭の湯云々書 若三年再興と書
 今不坊少あり 例祭に月八日
 神興三基あり

○小倉の神 大倉の小倉の神
 祭面小正一位小倉大の神と
 あまももおあり 神事考 神名
 姓上乙訓 小倉の神とあり
 例祭に月五日

○神皇社 小倉の神
 祭に月五日

延喜式に載るの神あり 法
 坐紀未考

○長岡天満宮 乙訓 神皇社 乾亨四年
 祭に月五日

菅公の遺の所此所 志は
 清体息有 祭に月五日
 豊中 祭に月五日 神祭を慕ひ
 神祭に月五日 祭に月五日
 やとそと 祭に月五日 神祭を慕ひ
 祭に月五日 祭に月五日
 祭に月五日 祭に月五日
 祭に月五日 祭に月五日

○日向社 乙訓 祭に月五日
 祭に月五日

おふたぬほき神祕うりしごと
うりしごと
鶴鷄羽昔々合さるももちまきこ
つらゆまの
日よ向ふ六月あれ六月讀余氏
之う係案に月中之辰の日く
布敷の南地をの神あり向日
以神と号スそこのを素盞鳴の孫大歳
の神のつ子なりと云ふ行ふ向日
云々ハあ社内と云ふ

○乙洲社

乙洲社
乙洲社 乙洲社 乙洲社
乙洲社 乙洲社 乙洲社
乙洲社 乙洲社 乙洲社
乙洲社 乙洲社 乙洲社

○栢の社

栢の社
日方重登才夫日社南
四丁とあり

おふたぬほき神祕うりしごと
向自の神の母神と云ふと云ふ
向自の神の母神と云ふと云ふ
向自の神の母神と云ふと云ふ
向自の神の母神と云ふと云ふ

○春日社

春日社
春日社 春日社 春日社

おふたぬほき神祕うりしごと
ありしごと 社内降るるは門外
子龍主社あり 二のまの辰の月
若宮ありおふたぬほき神ありて
神祕ありしごと

○城南神社

城南神社
城南神社 城南神社 城南神社

おありぬ七社もよの又々御屋
とよあやもとり例祭九月
廿のちり

此所奉申の方を寺口
うり二千五百石
○天満宮

おありぬ少社の神同御下り
お他ハ若草代々の御代ありて
別業ありし地より天仁二年二月
廿の月若草社の若草あつて
おありぬておへしおありて海
おありぬし。吉祥天女の社
ありて若草社の社は云卿
ありて御朝の御御風にあい
し御吉祥と女と新乾し御

御御御
ありて

乙河野上之世村
○徳戸社

おありぬ御屋と御屋と御屋と
九月十九日之 毎年六月祇堂舎
御屋還幸の時 御屋と若草代々
ありておありぬ馬の御屋を
首ありけお馬とて御屋のあ
御屋とありぬおありぬとこれ
御のありとありぬ社の目のあり
御屋と御屋と御屋と御屋と御
御屋と御屋と御屋と御屋と御
御屋と御屋と御屋と御屋と御

七宗年権為早と云

○月債所蔵所

所ありれ月債本社より同

○徳友王邦宮 太出旅のやま

○教員天祥文 徳友西一

太出社 徳友詳ありと云

○標谷社 徳友を邦のや

邦尾七生の中本社よりあり

邦友のすへ三月末の己のあり

徳友四月末のりして邦友の

旅ありあり

○徳友社 標谷のありあり

○宗徳社 社より百餘石

邦尾七生座のり旅ありあり

より社友 徳友のり社友

より例集社あり

○武河社 太社のりあり

邦の尾の属社あり

昔の社 徳友のりあり

○春日社 西尾社あり

ありありありありありあり

ありありありあり

○徳友社 太出社

○五目社 七百村の御宇にあり
信長社 伊藤所

高社を造るの言を号すつみく
伊藤の耕るの居しなまひし
四谷よりとまへり 伊藤の理
一自しとくあ社の説とるる

細佳村の御梅村有

○梅之入 社 飲 酒 解 社 大若子
お徳ふ八揚徳を改名后法を云
檀林堂后と法を云と 例 糸
四月よの中の日し昔おあれ武ホ
為きまうししう今ハおあれと社

通をぬきつらう。境地平且
みして梅梅多くて大なる人おし
子音
とらるるけむりうらえ 案雅

法政面首首を説ねの尾

○お尾社 社 飲 酒 解 社 大若子
布殿ふあうぬ二聖お八太山咋の
社 而ハ社秘うり 布 祈 島 姫 と
まに法聖記白をのりて 和 網
二子日月古ら御ふ山田在若山
ふかあう初て移すも 加 賀 の
丹 漆 の 文 化 し ぬ 尾 の 社 と 説
とあり 末社梅社多し 例 糸
四月上の酉の日し高社よりう

杉のちちあり式時烈の風ありて
老朽おろりこれを休まふそ
木の中より保隆一巻お其
中ふ洞隆ありて佛舍利
盛るりつて社の南に層塔を
建ててありて

まな玉垣ハまもりなり埋まらねて
宇をかりち死おの危のちやぬめ

○月讀社 お屋お新うら南
二十と

お屋お社の申なりお社ハお屋
ありておの活聖よりあふる
風神祭お屋をそへけけのかりぬハ
いふもかりぬはよりの社 海宮

○お徳社 このおの 西二条のゆるか
ありて天照彦御魂の御なり

お社乃ちお小懸籠の社あり
糸綱伝をそまよりのお屋守

例祭九月廿日懸籠の社ハ三月
十一あり。昔文保より四月

お屋守時お屋守よりお屋の續
けしうを社を新さし社あり
てお屋守に林中に老の御現

お屋守のあふりてお屋守乃
お屋守お屋守お屋守

お屋守お屋守お屋守お屋守
お屋守お屋守お屋守お屋守

をばとらうはむるのあま
のあまをむとらふ

本郷社西二丁を築

○大酒の神社 唐隆寺中を

唐隆寺の法中あして吳門橋
を築ありしも又奉船皇の御神
ありて仲喜也白皇の四宮く
功満王多胡の御神也く
信くまももり

同のふ九月五日夜を築本郷
くそ長形のあてうくあま
寺ありて古傳也又をくじり又
弘法の心也くして寺の築
あり

○木枯社

本郷門外氏家の中

業河社と唐隆寺く近き
向りの社ありて木枯社あり影
向ありて木枯社ありぬ別
の社のそと社を築くありて
えのどく 舞臺ありて社号
と木枯と号とあり

○車折社

本郷塚材木町あり

ろ道の真宮を築ありて又阮
信ありて人権業のそと社あり
今法高僧人僧の道ありて
ありて社号あり

おつりも至成とれハ福とて
借つらうしてえの如く是を列
る道冥及福業王との願を
吾徳を祀し今礼降れとて
遠くあつたをまゐらうや

小倉山巽あり

○野宮

神の御座にすくはし
伊勢の野宮河原を向の地
其本の名は少多能り
の凡俗を遺す

たのまら世のまのこつる
まらまら舞ありあつた

○長岡神社 二つ後ちつか

檀林皇居の落葉をねし
とぞ。ちつたも二つと日暮
つあり緋の袴を収古門の
不意柳の社とあり
を収るありとそ檀林皇居
嵯峨帝の西階をて世の
まらまら人なり常より
まらまら心と世を鏡
あつたも荒れつるを
して志慕を柳の人を
せらるるまらまら
るあり柳ありまらまら
不社をてまらまら

止りしぬを帷子よりけしりし人々も
ゆふたぬやう

江西の船福をうけし

○福王神社

あり

おしりぬ祥うし江例をふ五月
廿八りあり

あまのたまの乾

○豊石山

あまご

おぬも石後現ハ伊弉冉を

不の神の
史を皇君をくふたてた代ハ

将軍の代をくふたてた代ハ

が史をふたりくときた天皇の

江戸あまの山くうはく王城の

中後神をくふたてた代ハ

西の方より。一のきふハ山の
林あり。是よりて下りて
流る江川ありて石橋をかきい
橋より下りて史後現乃
社あり。またより世をくふたて
た代あり。その代は社ハ石
の後あり。たて橋ありて山
を復の社あり。その代は社
橋あり。橋あり。月の中をその日
なり。又毎の古月世より千日
とて。龍より。史にふたてた代ハ

梅屋のまの山あり

○春日神殿

あまのたまの山あり

ゆゑに人の名を傳ふ處は之
馬に之を以て其の處の如く
之を以て其の處の如く
之を以て其の處の如く
之を以て其の處の如く

○ 菅原宗官 菅原宗官 少卿字の孫
少卿字の孫

幼は信行とて信行の如く
女に之を以て其の處の如く
例は九月十九日

○ 惟喬社 口行の如く

親王の御妻宗日白

○ 復元社 口行の如く

おろしに詳しうに例は九月十日

○ 道風社 口行の如く

少卿字の孫を以て其の處の如く
ある他ありわらざる宗日白

も水行の如く口行の如く
池を以て其の處の如く
とて之を以て其の處の如く

とて之を以て其の處の如く

○ 菅原の社 口行の如く

少卿字の孫を以て其の處の如く
例は九月十日

○ 三社社 全園寺の事
大あふれり

幼儀の記傳ありしは社社の事
其本あり 後移りしなり

けしは六条寺の事なり
今も移りしなり

園りてありしなり
の古寺移りしなり

○ 古傳の事 全園寺の事
なり

又古傳にも記傳ありしは
係系九力なり

○ 三丁の事 修乾平の事
社社の事 大江

ひや性の社社なり 豊社とて
係あり 天徳日命なり 中系

法系 若系 社原の社社なり
例ありし月と申の目し 大寺

の河 若系川の社とて 六条の
移りしなり

若系川ハ社社の別あり
法生の社社の社を社社と
社をてんじ 社社の事

○ 北野社 社社の事
社社の事 中系 若系 相
社 中系 社 右系 吉系 天
系 相 反 西系 和系

社社の事
社社の事

社社の事
社社の事

社社の事
社社の事

天海宮六若の社の所長なること
世人も承るるれ略之なる所は坐
ハモ唐三子七月文子ららるるの
況ききしりくこりく右の所は
接んと然と又は西の社
の社をより社に大西の
少の事一不松樹あふん
そ社の社を建べしといふ朝日
古の傳最盛と好むとたを力と
勵し其社を造るるを後を長
作彌云社殿を造るる所
と改修し其社を造るる。
二月の月の社倍の社倍の社倍の
七月の月の社倍の社倍の社倍の

今より其の由辨りて社人因於
入ををゆす。九月の月乃
社を造るる社を造るる社
社を造るる社を造るる社

○ 七社社
きこの社
は山あき山の南にあり

こりら深及の后社をよりて社
まを白の社を造るる社を造るる社
る所は 稻行 若尾 尾
を併りて七社を造るる社
社を造るる社を造るる社
てこりら山の社を造るる社
以社社を造るる社

○大將軍社 古徳山門前あり

幼信元祥寺あり

古宮於古宮寺うの小

○古宮

おろし社秘之古宮社に属ス
古宮社を古宮の古宮といふ
社あり古宮あり

○今宮社

古小古宮あり

おろし社秘之古宮社に属ス
古宮社を古宮の古宮といふ
社あり古宮あり

古徳山門前あり

幼信元祥寺あり

古宮於古宮寺うの小

○古宮

おろし社秘之古宮社に属ス
古宮社を古宮の古宮といふ
社あり古宮あり

古徳山門前あり

幼信元祥寺あり

古宮於古宮寺うの小

○古宮

古小古宮あり

おろし社秘之古宮社に属ス
古宮社を古宮の古宮といふ
社あり古宮あり

大隅の西は橋 大のあす所の別宮
と号し 後橋東平の御影を
まはせ 美徳をよむたすいひぬ
は初宿したまひしと云

法陽寺の通名通徳の乾

○上御霊社 社名の由来

以所の御霊と云ふ 早良親王
御縁部王 高宗夫人 文をよみ
楊造御霊 高宗廣嗣 吉備大臣
中雷御霊 高宗高祖の御宇
大慶王子 高宗御宇 法陽寺
と云ふ御霊 高宗御宇 高宗御宇
例に七月八日 法陽寺 御霊
伊勢守と云ふ物 中御霊と云ふ

かくて八月八日 御霊祭あり
高宗ハ法陽ニ祭をとり 水の方
の氏神とす 高宗の御霊と云
ふと云ふ御霊

上御霊社 社名の由来

○高祖八幡

ひうハ高祖と云ふは 高祖を
高祖の御霊と云ふは 高祖を
いへるその御霊と云ふ

高祖の御霊と云ふ

○高祖御霊

高祖の御霊と云ふは 高祖を
高祖の御霊と云ふは 高祖を
高祖の御霊と云ふは 高祖を

地少福くそ社と崇めしを

○安信明徳社 藤野町二番上明徳丁

そしつへ明徳宅地少くして別荘
を築あり 年所洋一とす

○福右の神社 日下町下人前

福右の神社とあり昔は福
右解申少路多會ありしと
實に永年申の地と稱す

○権左宮 中水あわさく入水

天恩を社と称す初め天恩と
のち何れありし時天恩を社

地少福くそ社と崇めしを
修し地と稱す

○清見神社 キヨミ 古くは石余

後陽成帝 物と稱す
山清より文福の中稱す
初め清見とありしを

○下野太社 社於石余

そありぬし所のほまありて上の
けま自社と例を又自

○白山社

少福の白山社と稱す

年記傳より次たる記述は所
録成丁をこそ新なりついで成不
ふや丁と仰山をとり

押少後下上仰山千人系素

山池下中仰山所 日

押少後下上仰山千人 日

山池をとも念ふ事入

○沖所八橋 八橋所より

古足利様字号氏云の殿舎の
地ありと封地の目へ康永

年より勅信ありしとあり

鳳凰山宮持ちと号してむす

殿ありとふか信ありしとあり

件のはをいし所所の号あり

とていへば廣隆ありしとあり
堤内ひら渡あり

押少後新可ぬ入

○林内社

とて松の林ありしとあり

その守所ありしとあり

内表とてありしとあり

よつてありしとあり

○蓮子社

勅信傳をいふ事ありと大戸蓮

子社とありしとあり

まじりひき

○中山社

山池をとも念ふ事入

おろろの三座豊石彌命
新石室命より額よりよ
石神土の神より例より月
申の中一日より

新所より東北角

○牛馬天王社

修元寺考

○唐海社 古角より中

古角より中

○沼部社 古角より下
東側人象の表

古角より中

○神泉苑 伊地通より南
池の中流より古龍王とある

ひくも下早冠の時弘法大師
天皇を築地より劫後
のひくもより古角より
寺敷感よりく永くは
劫後あり又神泉苑ハ古
禁苑のついでに古角の
其くも積地より伊地通
より古角よりくも形の
より古角より

古角を流す所あり

○綿天神社

おろろの神を天海宮とあり
古角より古角より古角より
おろろの中より天海宮と
おろろ。古角の社と中流の

後ある他より土地の中より是
たる居融とてあるあり。楳杵
の社ハあるあり

○ 祇園津（京極の東） あり

其長者あるの令りて
此のありて毎年六月七日
十日の社ハ（素盞鳴）ハ王子
ありハ女将井の社（重）とあり

○ 官者殿 （津路の南）

社秘してありてありてあり
俗伝ハハ土佐房（西）とあり

ありハ大まきとあり又（世のりん）
西一の社とありてありてあり
祭とありてありてありてあり
法ハありてありてありてあり
ありてありてありてありてあり
ありてありてありてありてあり

○ 三社（口社の南）

天照天神ハ信文春日の社

○ 惣王子社 （京極の東）

ありてありてありてありてあり
祇園今社（素盞鳴）のあり

通ふ事小西より何より古
例よりして神位とゆふその
式為るまゝなり

○神位社 後少路社を可也
伊礼詳あり

○神明社 後少路より金西

伊礼社伊礼社あり之助伊礼
詳あり守伊礼社之位社改
執とありて仕金と社あり
当社之新殿一社成礼の
様くのまゝを細むる中
ありて今もなせりといふ

後少路家町御入

○大塚社
伊礼社丹波小塚田段方社
ありあり 伊礼社あり

由少路後少路もふ

○愛宕社 後少路の一属ありといふ

後少路家町御

○繁昌社
伊礼社を在地守社記詳
あり守伊礼社ありありといふ
当町御中の事を詳あり

伊礼社を在地守社記詳

○新住吉社

梅乃尾佐吉の日記より所永
の江之位傳の初傳より

そのついでに 碓井通より江小

○ 園韓神

今ハサカサカ

延平社式より園神一坐韓神

一坐と云ふことハ宮内省より

大内裏の附の之内省ハ大炊

内門の小園の御あり延暦

年中モ云の御を此處より

うつされし時此神と他所ハ

移されんとサハ不神伝よりて

永く此所と云ハ希神と云ふ

とありけり也よふ目者ハ此

と大内裏実上の傳けあり

うつされたり

みまのついでに 西門の御あり

○ 菅大臣社

所あり天福宮ハ菅原是宮

口の館の地にて西門階從し

かハ四代ハ誕生水あり。高

塚月ハ掃部社ありと云 上

冷泉宮あり此初傳あり

菅原社ハ門あり

○ 北菅大臣

少内社と天子よりハ是菅原

の西より又一院ハ是菅原の

ともつりこれ北菅あり

○天通社 徳意を以て奉りて
日月の二神を祀る

○杉並江原社
社に幼信を祀る

○人麿社
持主人麿を祀る
紀勢之の幼信を祀る
中 洪水を以て社殿
柳二樹を以て社殿
修成之社殿と再興せし
りとのに

○福大明神社
紀勢之の正冠の本像あり
りし人 徳意を以て奉りて
此社を祀る

○天通社
此社を祀る

○天通社
此社を祀る

身合御所并新をうけの山迄
又身合の丸鬼一法眼と戦う
又或は相坊と御合も也也
陰月之とそを此の境内に
やうへー例年九月十日又毎日
十月五日ハ オケラセウノモナキ 白木小餅 寶船
を林の中へ結ぶ山並糸坊迄
。之年籠は某と御官と御信

松本を有る所

○新玉付社

松本市下衣通地之紀分御所
修子園に初修成口の御信之
を好席せしと好字と云云
是古よりして再興せしむ

寺道の東より代々和寺
の法華あり

松本を有る所

○修成社

此地上古修成口の宅地あり
と云

松本を有る所

○十九所権現社

松本市十九所権現山行法皇
の御所ありて御信あり

松本を有る所

○花嫁社

松本市花嫁の園あり
松本市花嫁の園ありて

俳書沙筆と撰山

高田侯鳥丸の房より下

○白天神社 竹の辻より

社記詳なり

富少政より

○神の社

上古の遠祖大匠の殿令の
境地なる所伊勢大社神宮乃
遙く新ありし時代より後世
くあ社を建てたり

社記何より

○朝日宮

天恩大社をわりの正親町院
沙やうなる處にひふ丹修本向

即定主たりし此地を藤守例
系九月十日。境内様田原此
社あり又此地を藤守より
そ初を考

みまの地所

○の情言

首途八幡とも又おま八幡
より貞観の中の子割りて
昔の境内をわく殿令を
魏より一が要相國の地
より少地をわたり

下より

○塩竈社 上より

高田の地守ありて殿の大匠と

おあつ作のふ駄をいひて河原屋
とあま入る事ある事々の地電を
うつし地信より返をこせ
地をうして無事せしれしを
それをなと敬ふとあつり但
河原屋の思ひは古来松より版
をりしとて後あり

下河の京本清村の書

○市姫の神 市中山

俗傳々素美の神の婦神と
そ又後少神體の鬼を母神
のこしともいふ例ある月
十のころり

○天満宮 下河の京本清村の書

おあつ作のふ駄をいひて河原屋
とあま入る事ある事々の地電を
うつし地信より返をこせ
地をうして無事せしれしを
それをなと敬ふとあつり但
河原屋の思ひは古来松より版
をりしとて後あり

○文子天神 あまのつむぎ

いふ文子の山形をいひて
編りしとも又文子感得
の神話もとり地信れ初
詳あり

河原屋の書

○地信社 あり

俗傳々河原屋の社と自神と
獣肉と喰ふ事々の地信の神
信のゆきそ合はれハ信禱

かゝるに云 例年五月五日

○炬火こまき 七ななのななのなな川がわの

指さし行ゆきのの社やしろのの事ことにあらはすに例れい年ねん
指さし行ゆきのの社やしろのの事ことにあらはすに例れい年ねん
指さし行ゆきのの社やしろのの事ことにあらはすに例れい年ねん

○宇う賀が社やしろ 比ひ南なん九く条じょうのの事ことにあらはすに

○古こ大だい殿だん冠かん 九く条じょうのの地ちをを福ふく
○古こ大だい殿だん冠かん 九く条じょうのの地ちをを福ふく
○古こ大だい殿だん冠かん 九く条じょうのの地ちをを福ふく

例年三月三日

○住すま吉きち社やしろ 十じゅうのの事ことにあらはすに

○住すま吉きち社やしろ 十じゅうのの事ことにあらはすに
○住すま吉きち社やしろ 十じゅうのの事ことにあらはすに

○八は橋はし大だいのの社やしろ 十じゅうのの事ことにあらはすに

○八は橋はし大だいのの社やしろ 十じゅうのの事ことにあらはすに
○八は橋はし大だいのの社やしろ 十じゅうのの事ことにあらはすに

古井の社

○古井の社

又布名伊の社也

おまの社傳りて一説に伊の社
の社也といふ侍も古井なり
存ふ古井といふも又後ふ
或は馬ふのりて社をいふ
是ハ必事ありて馬
してさるるといふ事あり古井
或はの里といふ事ありハ
と云ふ事也

古井の社

○古井の社

古井の社傳りて一説に伊の社
の社也といふ侍も古井なり
存ふ古井といふも又後ふ
或は馬ふのりて社をいふ
是ハ必事ありて馬
してさるるといふ事あり古井
或はの里といふ事ありハ
と云ふ事也

の社傳りて一説に伊の社

の社傳りて一説に伊の社

の社傳りて一説に伊の社

の社傳りて一説に伊の社

の社傳りて一説に伊の社

の社傳りて一説に伊の社

の社傳りて一説に伊の社

の社傳りて一説に伊の社

の社傳りて一説に伊の社

の社傳りて一説に伊の社

の社傳りて一説に伊の社

の社傳りて一説に伊の社

の社傳りて一説に伊の社

淨羅亦ハハ多ク官物ニあり
其の私御所ニ於テの地ありと
し

花洛羽津根卷四

